

# ルーマニアでの能楽指導報告

善竹十郎

## 1. はじめに

2010年10月25日から12月4日まで、ルーマニアの首都ブカレストにおいて、ユネスコ ITI (International Theatre Institute, UNESCO)、日本の国際交流基金、ルーマニア文化インスティテュート、桐朋学園芸術短期大学の共同企画により、アジア・ヨーロッパ・プログラム「日本の演劇と文化」が開催された。内容は、能狂言、舞踏、日本舞踊の3講座の講義とワークショップであり、桐朋学園からの派遣で、能狂言は私、善竹十郎が講座を担当した。舞踏は加賀谷早苗氏、日本舞踊は藤間藤三郎氏が担当した。日本の演劇の歴史と美学の講義は、ユネスコ ITI 代表 (UNESCO Chair ITI) でこのプログラムの総括責任者である、コルネリ・ドミトリウ教授 (Professor Corneliu DUMITRIU) が担当した。

プログラムは3期のモジュールに分かれ、「モジュール1」として、10月25日から11月2日までが能狂言、「モジュール2」として、11月3日から11月22日までが舞踏、「モジュール3」として、11月23日から12月4日までが日本舞踊だった。各モジュールの最後には公開の終了デモンストレーションが行われた。ドミトリウ教授の講義は全モジュールを通して開講された。

## 2. 受講学生について

ルーマニアの演劇のレベルの高さは、2008年6月に演劇専攻学生(40期・41期)と「ルーマニア学生シェイクスピア祭」(引率責任者は宮崎真子先生)に参加したときに承知はしていたが、能と狂言の手法、テクニク、発声法、呼吸法などルーマニアにはなじみのないものを、短期間のうちにどこまで指導できるか、はなはだ不安を感じていた。講座初日にユネスコシアターのセミナールームで、受講生10名がドミトリウ教授から紹介され、彼らの意欲がすぐに私に伝わり、この学生たちなら成果を出すことができると確信した。受講生

は、ルーマニアでプロとして活動している俳優が男性4名（ただし、1名はポーランド人）、女性6名（ただし、1名はポーランド人）だった。

### 3. 講座の時間

ワークショップの期間は10月26日から11月4日まで、6日間だった。午前中に3時間、午後に3時間、夜に3時間、合計1日に9時間だった。この日程での特訓を5日間、そして最終日は、19時から20時まで終了デモンストレーションが開催されたため、舞台でのリハーサルを6時間行なった。合計約59時間の指導となった。

### 4. 基礎訓練として

指導の第一として、呼吸法の指導を行なった。どのような呼吸法を実践したかを記したい。基本的には腹式呼吸である。いわゆる丹田呼吸である。まず、「フーッ」と息を出し、2秒吸って8秒出すという私の工夫した呼吸法を何十回も繰り返し実践してもらった。

次に発声の指導を行なった。すでに指導した呼吸法の延長として、8秒息を出すときに、「あ〜ッ」（ミ）、「え〜ッ」（ソ）、「い〜ッ」（ラ）、「お〜ッ」（ド）、「う〜ッ」（レ）と長く発声し、日本語の51音を十分に時間をかけて発声することを指導した。坐禅の姿、または正座の姿で背骨を伸ばしての発声は、受講生たちにはとても新鮮であると感じた。受講生からの感想は、①体温は上がり、②声帯に負担がかからず、③腹筋が鍛えられた、というものであった。私の意図が十分伝わったと認識できた。その後、受講生たちは、その後のウォーミングアップにこの方法を取り入れることとなった。

その次の基礎訓練としては、正座から片膝、片膝から立つ。立ってから摺り足で歩く、このような一連の動作を習得してもらいました。巾二間半、奥行き八間程度の細長い教室をぐるぐると円（楕円）を描くように静かに回ることを繰り返した。そして変化をつけるために、序破急の動きを指導を加えた。この訓練の意図も受講生たちに受け入れられた。受講生全員、それぞれに、はじめはゆっくり、徐々に速く、そして前へスーッとスピードをつけてピタッと止まることを繰り返した。各自がそれぞれの呼吸やイメージをもって空間移動を楽しんでくれたと感じた。これらの基本動作が能狂言のあとに続く「舞踏」や「日本舞踊」にも役立ったことと思われる。受講生たちは、ときどき「なぜこうい

う動きを私たちにさせるのか？」「これはどういう意味があるのか？」という予想もしなかった質問を浴びせてくることもあった。理論から実践という西洋人独特の考え方を体験した一瞬であった。

## 5. 指導内容について

狂言の稽古として、まず最初に小舞「盃」をローマ字化したテキストを作り、日本語の謡を覚えてもらい、同時に舞も舞えるように指導した。この舞は終了デモンストレーションで披露した新作狂言にも取り入れることとなった。次に狂言に出てくる擬音語、擬態語、いわゆるオノマトペをテキストとしてまとめて口頭訓練を行なった。ガラガラ、サラサラ、ドブドブ、チョロチョロなどであるが、これらも新作狂言にタイミングよく取り入れられることとなった。

## 6. 新作能と新作狂言について

最終日に公開のデモンストレーションとして、学習した舞、謡、型を発表することが最初から予定されていた。受講生たちと検討し、発表内容を確定することになった。

荒筋は受講生たちにアイデアを出してもらい、私はその内容や構成を整理して演出し、作曲（節附）を試みた。受講生たちの構想はすばらしく、狂言、能を各一作品に絞るのは大変なことであった。前半の3日間は基礎固めとし、後半の3日間は作品創りに当てることになった。

たまたま2日目に受講生が私へのプレゼントとして、『イオネスコ詩集』（注）を贈ってくれた。この本は新作能制作にととてもよいヒントになり、能の「ザ・チョイス」が先にできた。王（ワキ）の娘（シテツレ）に婿を、舞の上手な者と結婚させる旨を名乗り、シテは婿として英雄ハイペリオンが登場してツレと相舞（能の舞として学習した世阿弥作の廃曲能「雪山」の狂言小舞の型を応用）して二人は結ばれたという単式夢幻能に仕上げた。上演時間は40分を予定した。

狂言はその筋にのっとり、王（アド）が自分の娘（アド）に舞の上手な男を婿にとりたいたいと思っているところに龍（シテ）が登場し、舞が舞えないためにダンス教師に舞（学習した『盃』）を習い、王のもとにでかける。王は婿の候補者としての男を酒でもてなし、舞を所望し、娘もともに舞ううちに、男が人間ではなく龍とわかり、王と娘は逃げる。龍は英語で“I'll eat you!”（狂言で

は『いで喰らおう！』と云いながら追い込むという作品に仕上がった。上演時間は 20 分を予定した。

## 7. 指導の成果

最終日のデモンストレーションで上演した新作狂言『龍婿』（英語題「ドラゴン・グルーム」 Dragon Groom）と新作能『ハイパリオン』（英語題「ザ・チョイス」 The Choice）で受講生たちの学習成果が発表できた。受講生の熱意の結晶として、このように新作ができあがったのだと思う。わずか 1 週間でこのような作品に仕上がるとは信じられないほど、すばらしい上演だった。配役を投票で決定したことも効果的であった。狂言の舞の「雪山」、能の「盃」を取り入れたことも成功したと感じた。

## 8. おわりに

舞台歴 60 年の節目（6 歳で初舞台）の年にルーマニアの現役の俳優として活躍している受講生たちに能楽（能と狂言）の基本を伝えることができたことは光栄なことであった。10 名の受講生ひとりひとりの心の奥底に技芸の確かさとして残ることと思われる。正しく、世阿弥の言葉通り「心から心に伝わる花」をルーマニア国において実践できたという感触を抱くことができた。本当にすばらしい受講生を相手に日本の能狂言の指導ができたことにおおきな喜びを感じた。

（注）イヨネスコ Eugene Ionesco (1912 年 11 月 13 日～1994 年 3 月 28 日)はフランスの劇作家。ルーマニアのスラティナで生まれる。「反演劇性」（アンチ・テアトル）の演劇を展開した劇作家。代表作は『禿の女歌手』『椅子』『授業』『花嫁候補』など。

## 資料1 受講者名と所属

Marius CHIVU, Actor at the Bulandra Theatre in Bucharest  
Simona CUCIURIANU, Actress and Ph.D candidate at the National  
University of Theatre Arts and Cinematography, Bucharest  
Victoria DICU, Actress at the National Theatre in Bucharest  
Maria DINULESCU, Theatre & Film Actress, Bucharest  
Alexandra FASOLA, Actress at the Jewish National Theatre in Bucharest  
Florin, GRIGORAS, Lecturer at the National University of Theatre Arts  
and Cinematography, Bucharest  
Dan LUPU, Theatre Actor, Bucharest  
Daniela NANE, Actress at the Bulandra Theatre in Bucharest  
Paulina SACHARCZUK, Actress, A.Z. Theatre Academy in Warsaw  
Pawel PASZTA, Theatre director, A.Z. Theatre Academy in Warsaw

## 資料2 配役

### ① 新作能「ザ・チョイス」

王 (ワキ) : Florin, GRIGORAS  
王の娘 (シテツレ) : Paulina SACHARCZUK  
婿 ハイペリオン : Daniela NANE  
地頭 : Victoria DICU  
打楽器 : Marius CHIVU、Maria DINULESCU  
笛 : Pawel PASZTA  
効果音 : Dan LUPU  
地謡 : Simona CUCIURIANU、  
Alexandra FASOLA、  
Paulina SACHARCZUK

### ② 新作狂言「ドラゴン・グルーム」

王 (アド) : Pawel PASZTA  
龍 (シテ) : Victoria DICU  
娘 (アド) : Alexandra FASOLA  
ダンス教師 (アド) : Simona CUCIURIANU